

バイオダイライザー・ターボ™(ダブルサイド)[BioDialyzer Turbo™(Double Side)]

バイオダイライザー・ターボは、メンブレンがチェンバー両端に装着されるため、サンプルが試料室部分でメンブレンによって、サンドイッチにされた状態になります。使用するメンブレンの表面積が二倍に増えたことによって、サンプルのバッファーなどに対する接液部分が大幅に増え、透析効率が上昇します。また気泡が試料室に混入しても、試料室自身が貫通しており、常時両端に装着されたメンブレンのうち一方が、サンプルの接液部分としてバッファーなどに接触しているため、透析が可能です。このため通常のバイオダイライザーとは違って、気泡が混入しないように、試料室をサンプルで充満する必要がありません。このバイオダイライザー・ターボは、エレクトロブレップシステム(特殊電気泳動槽)と一緒に使用しますと、電気溶出、ゲル断片からタンパク質/核酸の回収、電気濃縮、電気透析、平衡化透析など、より多くのアプリケーションが可能となります。

アプリケーション

- タンパク質、ペプチド、DNA、RNAなどの精製
- バッファー交換
- 界面活性剤の除去
- サンプル濃縮
- HPLC、HPCEの前処理
- 過剰な標識用ラジオアイソトープの除去

- PCR 反応後のプライマーの除去
- MS、LC/MS、NMRの前処理
- 平衡化透析
- タンパク質 バインディング・アッセイ
- 免疫プロットング*
- 塩化セシウム、アガロース、5-りん酸ピリドキサールの除去*
- クロマトグラフィ後のシリカの除去*
- 複合糖質の精製*
- * エレクトロブレップシステムとの併用

特徴

- 通常のバイオダイライザーと比較すると、二倍の透析効率
- 簡単な使用法
- 50 μ l ~ 5mlサンプル容量に対応するサイズのラインアップ
- 多種類の分子量カット・メンブレンで、ほとんどのアプリケーションに対応
- チェンバーは、何回でも使用可
- オートクレーブ可能
- 不活性なテフロン製チェンバー
- 低いタンパク質の非特異的吸着
- 高いサンプル回収率
- 液漏れが無い
- 迅速な透析/精製

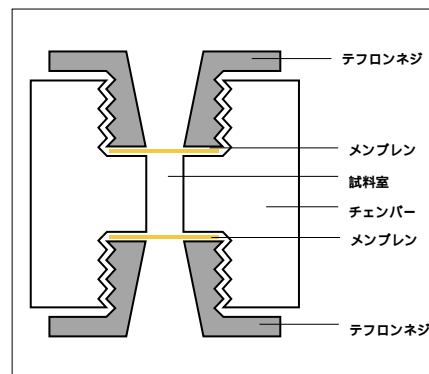


図1. バイオダイライザー・ターボ断面図



写真1. バイオダイライザー・ターボ